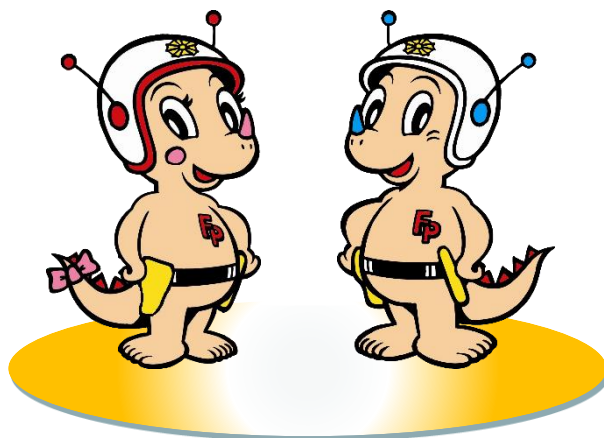


福井県の治安情勢 [10月末現在]

(令和3年10月末数値は暫定のものを含む。)



— 福井県警察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は2,308件で、前年同期に比べて27件(1.2%)増加

検挙件数は1,731件で、前年同期に比べて274件(18.8%)増加

検挙率は75.0%で、前年同期に比べて11.1ポイント上昇

		H30	R1	R2	R3.10末
福井	認知件数(件)	3,197	3,132	2,764	2,308(+27)
	検挙件数(件)	1,786	2,023	1,960	1,731(+274)
	検挙人員(人)	1,117	1,291	1,263	914(-91)
	検挙率(%)	55.9	64.6	70.9	75.0(+11.1p)
全国	認知件数(件)	817,338	748,559	614,231	469,531(-44,666)
	検挙件数(件)	309,409	294,206	279,185	215,312(-13,078)
	検挙人員(人)	206,094	192,607	182,582	142,037(-6,547)
	検挙率(%)	37.9	39.3	45.5	45.9(+1.5p)

※1 表中の()内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は38件で、前年同期に比べて9件(31.0%)増加

検挙件数は38件で、前年同期に比べて12件(46.2%)増加

【認知件数】

(単位:件)

	H30	R1	R2	R3.10末
殺人	7	9	1	2(+1)
強盗	7	1	3	1(-2)
放火	4	3	1	2(+1)
強制性交等	7	2	8	12(+5)
略取・誘拐	2	0	1	3(+2)
強制わいせつ	12	11	22	18(+2)
合計	39	26	36	38(+9)

【検挙件数】

(単位:件)

	H30	R1	R2	R3.10末
殺人	7	8	1	2(+2)
強盗	7	1	3	1(-2)
放火	4	3	1	2(+1)
強制性交等	7	2	8	12(+6)
略取・誘拐	2	0	1	3(+2)
強制わいせつ	12	11	22	18(+3)
合計	39	25	36	38(+12)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は1,333件で、前年同期に比べて26件(2.0%)増加

(単位:件)

	H30	R1	R2	R3.10末
車上ねらい	277	147	189	98(-79)
自転車盗	487	477	307	248(-14)
万引き	516	516	543	348(-66)
置引き	205	217	143	102(-9)
器物損壊	335	261	238	193(-7)
空き巣	63	79	60	52(+10)
忍込み	38	58	46	251(+213)
住居侵入	45	62	72	41(-22)
合計	1,966	1,817	1,598	1,333(+26)

2 子供を犯罪から守る対策

(1) 児童虐待事案の認知・対応状況

ア 認知対応件数等

認知対応件数は455件で、前年同期に比べて2件(0.4%)増加

児童通告人員は501人で、前年同期に比べて44人(8.1%)減少

検挙件数は26件で、前年同期に比べて13件(33.3%)減少

		H30	R1	R2	R3.10末
認知対応件数(件)		193	372	555	455(+2)
児童通告	人員数(人)	238	418	678	501(-44)
	身体的	29	46	73	51(-8)
	性的	0	0	4	4(+2)
	不敬	33	28	31	22(-7)
	心理的	176	344	570	424(-31)
	うち面前DV	159	295	436	275(-87)
検挙件数(件)		16	47	59	26(-13)

イ 主な施策

- 児童相談所との24時間体制による情報共有と確実な通告の実施
- 児童虐待事案への対応能力の向上を図るため、児童相談所と合同訓練を実施

(2) 子供に対する声掛け事案等

ア 相談等件数

相談等件数は187件で、前年同期に比べて4件（2.1%）減少

（単位：件）

	H30	R1	R2	R3.10末
小学生以下	95	114	91	87(+7)
中学生	47	49	56	46(-2)
高校生	89	81	64	52(-4)
その他	4	4	8	2(-5)
合計	235	248	219	187(-4)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は87件で、前年同期に比べて3件（3.6%）増加

（単位：件）

	H30	R1	R2	R3.10末
検挙	24	40	27	16(-7)
指導・警告	68	72	69	71(+10)
合計	92	112	96	87(+3)

ウ 主な施策

- 事業者や地域住民等に対して、声掛け事案等の発生状況、特徴等の情報を提供し、「ながら見守り」活動への協力を要請
- 通学路等における警戒・パトロールや防犯ボランティアと連携した見守り活動を強化するなど被害防止活動を推進
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- リュウピーネットやGIS（安全・安心マップ）によるタイムリーな不審者情報の発信



量販店利用客に対する「ながら見守り」活動の呼びかけ



通学路における警戒活動

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は84人で、前年同期に比べて31人(27.0%)減少

(単位：人)

	H30	R1	R2	R3.10末
犯罪少年	87	103	101	64(-19)
触法少年	22	23	35	20(-10)
ぐ犯少年	0	4	2	0(-2)
非行少年総数	109	130	138	84(-31)

(2) 主な施策

- 小・中・高校生に対する非行防止教室の開催
- 少年や保護者等の悩みや困りごとについて、少年補導職員が電話や面接等で相談に対応



リモート式の非行防止教室の開催

4 女性を犯罪から守る対策

(1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は162件で、前年同期に比べて41件(20.2%)減少

検挙件数は165件で、前年同期に比べて32件(16.2%)減少

(単位：件)

	H30		R1		R2		R3.10末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
強制性交等	7	7	2	2	7	7	12(+6)	12(+6)
強制わいせつ	12	12	11	11	18	18	18(+3)	18(+4)
略取誘拐・人身売買	2	2	0	0	1	1	2(+1)	2(+1)
暴行	103	97	161	155	155	155	102(-31)	101(-31)
傷害	36	35	64	65	60	54	28(-20)	32(-12)
合計	160	153	238	233	241	235	162(-41)	165(-32)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は115件で、前年同期に比べて8件(6.5%)減少

検挙件数は32件で、前年同期に比べて2件(6.7%)増加 (単位:件)

	H30	R1	R2	R3.10末
相談等	74	121	157	115(-8)
検挙	8	23	41	32(+2)
禁止命令・警告	27	49	64	54(+5)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は196件で、前年同期に比べて32件(14.0%)減少

検挙件数は83件で、前年同期に比べて40件(32.5%)減少 (単位:件)

	H30	R1	R2	R3.10末
相談等	187	237	269	196(-32)
検挙	99	144	142	83(-40)
保護命令	9	7	14	9(-4)
警告	70	70	101	88(+6)

(4) 主な施策

- ストーカー・DV事案に係る被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底
- 企業等における女性の防犯、相談受理等を担う「レディースガードリーダー」を対象に、女性対象の犯罪を中心とした防犯講座・護身術講習を開催
- 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為者に対して、治療に関する助言を行うなど、行為者の更生を支援

※ R3.10末:17事案について17回実施



レディースガードリーダーに対する講習会

5 高齢者を犯罪から守る対策（特殊詐欺対策）

(1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は22件で、前年同期に比べて3件（15.8%）増加
- ・ 被害金額は約7,289万4千円で、前年同期に比べて約1,713万9千円（30.7%）増加

【被害の特徴】

- ① 被害者は、ほとんどが65歳以上の高齢者（20件、90.9%）
- ② 手口別では、還付金詐欺の割合が多い（10件、45.5%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」12件、「キャッシュカード手交型」4件、「現金送付型」2件、「キャッシュカード窃取型」2件、「現金手交型」1件、「電子マネー型」1件

	H30		R1		R2		R3.10末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	6	6,612	3	530	0	0	0(±0)	0(±0)
預貯金	—	—	—	—	7	8,201	4(-3)	5,576(-2,625)
架空料金請求	22	103,732	12	92,332	7	33,100	6(-1)	59,398(+26,298)
融資保証金	2	2,154	3	6,000	1	350	0(-1)	0(-350)
還付金	0	0	2	955	0	0	10(+10)	7,500(+7,500)
金融商品	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
ギャンブル	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
交際あっせん	1	505	0	0	1	10,560	0(-1)	0(-10,560)
その他	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
キャッシュカード詐欺盗	1	4,292	6	14,855	3	3,544	2(-1)	420(-3,124)
合計	32	117,295	26	114,675	19	55,755	22(+3)	72,894(+17,139)

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。従来、オレオレ詐欺として計上していたもののうち、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るものについては、令和2年1月から預貯金詐欺の分類で計上

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

(2) 検挙状況（助長犯罪*を含む。）

検挙人員は22人で、前年同期に比べて2人（8.3%）減少

	H30	R1	R2	R3.10末
検挙件数（件）	39	50	39	26（-4）
検挙人員（人）	36	39	31	22（-2）

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

(3) 主な施策

特殊詐欺緊急対策プロジェクトチーム（H29.11発足）による被害防止と検挙を両輪とした対策を推進

ア 被害防止対策

- 予兆電話認知時等におけるリュウピーネットやツイッター、Yahoo!防災速報等による県民へのタイムリーな情報発信
- オートコールシステムによる金融機関、タクシー事業者に対する速やかな情報配信
- 高齢者宅に対する電話による注意喚起や、制服警察官による高齢者宅への巡回連絡、出前講座による直接指導
- 金融機関等との連携による官民一体となった被害防止対策
- 安全・安心サポーターと連携した広報啓発活動



高齢者を重点とした直接指導



利用限度額引下げ
見直しの広報啓発



特殊詐欺撲滅
ネットワーク会議

イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 他の都道府県警察との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
 - ・ フィリピンを拠点とする特殊詐欺の犯行グループの逮捕（R2.1～）
 - ・ 有料サイト利用料金名目の架空請求詐欺（R2.12～）
 - ・ 百貨店を騙る預貯金詐欺事件（R3.4～）
 - ・ 警察官等を騙る預貯金詐欺事件（R3.5～）
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

6 暴力団等組織犯罪対策

(1) 暴力団対策

ア 検挙状況

検挙人員は41人で、前年同期に比べて16人(28.1%)減少 (単位:人)

	H30	R1	R2	R3.10末
刑法犯	76	63	46	25(-13)
特別法犯	36	45	26	16(-3)
合計	112	108	72	41(-16)

イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底 (H29.4～)

ウ 取締り

- 六代目山口組二代目中西組傘下関係者らによる常習賭博、組織犯罪処罰法違反事件 (R3.10)

エ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



暴力追放福井県民大会



福井県銀行警察連絡協議会研修会

(2) 薬物犯罪対策

ア 検挙状況

検挙人員は51人で、前年同期に比べて3人（5.6%）減少 (単位：人)

	H30	R1	R2	R3.10末
覚醒剤	37	46	40	24(-10)
大麻	13	17	22	18(-1)
その他	0	1	1	9(+8)
合計	50	64	63	51(-3)

イ 取締り

- 不良外国人らによる麻薬及び向精神薬取締法違反被疑事件（R3.8～）
- NPO法人役員による大麻取締法違反（営利目的）被疑事件(R3.11)



押収した乾燥大麻

ウ 主な施策

若年層に対する薬物乱用防止啓発活動を強化するため、中・高校生や大学生に対する薬物乱用防止教室に加え、SNS等のインターネットを活用した広報活動を推進

7 来日外国人犯罪の対策

(1) 検挙状況

検挙件数は142件で、前年同期に比べて43件（43.4%）増加

検挙人員は73人で、前年同期に比べて25人（52.1%）増加

	H30	R1	R2	R3.10末
検挙件数（件）	121	45	218	142(+43)
刑法犯	110	39	193	115(+35)
特別法犯	11	6	25	27(+8)
検挙人員（人）	33	44	67	73(+25)
刑法犯	25	38	50	51(+18)
特別法犯	8	6	17	22(+7)

(2) 主な施策

- 外国人留学生や技能実習生に対する防犯講習・法令指導の実施
- 外国人が経営するヤード（中古自動車、船舶の買取・輸出）に対する立入り調査の実施
- 在留外国人総合対策推進会議の開催

8 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受理事件数

相談件数は1,521件で、前年同期に比べて249件(19.6%)増加 (単位:件)

相談区分	H30	R1	R2	R3.10末
詐欺・悪質商法 (インターネット・オークション関係を除く。)	685	634	775	754(+123)
インターネット・オークション	79	38	35	41(+10)
違法・有害情報	55	35	26	83(+62)
名誉棄損・誹謗中傷	86	66	106	103(+14)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	86	97	147	165(+42)
迷惑メール	219	170	195	104(-75)
その他	190	164	253	271(+73)
合計	1,400	1,204	1,537	1,521(+249)

(2) 検挙状況

検挙件数は53件で、前年同期に比べて7件(11.7%)減少 (単位:件)

	H30	R1	R2	R3.10末
不正アクセス禁止法違反	0	8	6	2(-4)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	9	3	3	3(±0)
ネットワーク利用犯罪	24	29	65	48(-3)
詐欺	0	5	21	11(-7)
児童買春・児童ポルノ法違反	10	13	2	3(+1)
県青少年愛護条例違反	4	1	2	4(+2)
わいせつ物頒布等	2	2	1	4(+4)
その他	8	8	39	26(-3)
合計	33	40	74	53(-7)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

(3) 主な施策

- サイバー防犯ボランティアと連携したサイバーパトロール等による違法・有害情報等の実態把握の推進とプロバイダ等に対する違法・有害情報の削除依頼の推進
- 不正アクセス、コンピュータ・ウイルス等を利用する悪質事案等の取締り
- インターネット利用のルールやマナー遵守に向けた広報啓発、民間の自主的な被害防止対策の促進
- 「サイバー空間の脅威への対処に係る人材育成計画」に基づくサイバー犯罪捜査体制の強化



インターネット利用に係る啓発活動



サイバー犯罪捜査研修会

9 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

交通事故死者数は19人で、前年同期に比べて12人(38.7%)減少

死者のうち7人は自動車乗車中の事故であり、前年同期に比べて5人減少、全死者数に占める割合は約4割(36.8%)で前年同期に比べて1.9ポイント減少

死者のうち5人は歩行中の事故であり、前年同期に比べて5人(50.0%)減少、全死者数に占める割合は約3割(26.3%)で前年同期に比べて6.0ポイント減少

【交通事故発生状況】

	H30	R1	R2	R3.10末
総事故件数(件)	25,540	21,990	18,804	15,965(+1,032)
人身事故件数(件)	1,398	1,168	868	729(+3)
死者数(人)	41	31	41	19(-12)
傷者数(人)	1,589	1,333	940	823(+35)
重傷者数(人)	260	234	161	136(+2)
物損事故件数(件)	24,142	20,822	17,936	15,236(+1,029)

※ 全国の交通事故死者数(R3.10末)は2,101人で、前年同期に比べて160人減少

【年齢層別・状態別死者数(R3.10末)】

(単位:人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	1	1	0	2	0	1	0	3(±0)
30歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
40歳代	1	2	1	4	0	0	0	4(+3)
50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(-2)
60~64歳	0	1	0	1	0	0	0	1(+1)
65歳以上	4	0	1	5	1	4	0	10(-14)
75歳未満	1	0	0	1	0	2	0	3(-9)
75歳以上	3	0	1	4	1	2	0	7(-5)
合計	7	4	2	13	1	5	0	19(-12)

(2) 交通事故から高齢者を守る対策

ア 高齢者（65歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者数は10人で、全死者数の約5割（52.6%）

	H30	R1	R2	R3. 10 末
全死者数（人）	41	31	41	19（ -12）
高齢死者数（人）	28	18	31	10（ -14）
構成率（%）	68.3	58.1	75.6	52.6（-24.8p）

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行者・自転車乗用中）の死者数は5人で、前年同期に比べて9人（64.3%）

減少

歩行中の死者4人はいずれも夜間歩行中であり、うち3人は反射材非着用

（単位：人）

	H30	R1	R2	R3. 10 末
高齢交通弱者の死者数	15	12	19	5（ -9）
歩行中	10[10]	8[8]	14[14]	4[3]（ -5[-6]）
夜間歩行中	5[5]	6[6]	9[9]	4[3]（ -1[-2]）
自転車乗用中	5	4	5	1（ -4）

※[]は反射材非着用

ウ 主な施策

- フェンシング五輪代表の佐藤希望選手を一日交通部長に委嘱し広報啓発を実施
- 反射材マスクの配布による反射材用品の普及促進活動
- 高齢交通弱者に対する参加・体験・実践型の交通安全教育



一日交通部長による反射材用品の効果等の広報啓発



反射材マスクの配布による反射材用品の普及促進活動

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故※

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる死亡事故は6件で、前年同期に比べて6件(50.0%)減少

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3.10末
交通死亡事故件数	39	31	38	18(-10)
高齢運転者が第1当	15	8	14	6(-6)

※ 高齢運転者が運転免許を必要とする車両を運転して第1当事者となった交通死亡事故

イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）(R3.10末)

(単位：件)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	2	1	0	3	0	0	0	3(-1)
30歳代	2	0	0	2	0	0	0	2(-1)
40歳代	2	0	1	3	0	0	0	3(-1)
50歳代	2	0	0	2	0	0	0	2(+1)
60～64歳	1	1	0	2	0	0	0	2(±0)
65歳以上	6	0	0	6	0	0	0	6(-8)
75歳未満	2	0	0	2	0	0	0	2(-9)
75歳以上	4	0	0	4	0	0	0	4(+1)
合計	15	2	1	18	0	0	0	18(-10)

ウ 主な施策

- 運転技能自動評価システムを活用した体験講習
- 安全運転サポート車の普及啓発に係る交通安全講習
- ドライブレコーダーを活用した個別の交通安全指導



運転技能自動評価システム
を活用した体験講習



安全運転サポート車の普及啓発
に係る交通安全講習

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転対策

(ア) 飲酒運転による人身事故（運転免許を必要とする車両によるもの）

飲酒運転による人身事故は12件で、前年同期に比べて3件（33.3%）増加

死亡事故件数は2件で、前年同期と同数

	H30	R1	R2	R3.10末
人身事故件数（件）	20	23	12	12（+3）
死亡事故件数（件）	3	2	3	2（±0）
構成率（%）	15.0	8.7	25.0	16.7（-5.5p）

(イ) 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は106件で、前年同期に比べて3件（2.9%）増加

	H30	R1	R2	R3.10末
検挙件数（件）	229	223	156	106（+3）

(ウ) 主な施策（飲酒運転根絶気運の醸成）

- ハンドルキーパー運動を県内に広く定着させるため、福井県飲食業生活衛生同業組合、福井県交通安全協会と連携して酒類提供飲食店に対する協力依頼を実施
- 小学生等を「リュウピー・リュウミー交通保安官」に任命し、家庭や地域から飲酒運転根絶気運を醸成
- 県内居住地区別の飲酒運転取締り状況を表した「飲酒運転マップ」を県警ホームページに公表し、広報啓発活動や交通安全講習等で活用

イ いわゆる「あおり運転」対策

車間距離保持義務違反の検挙件数は62件で、前年同期に比べて46件(42.6%)減少
 進路変更禁止違反の検挙件数は1件で、前年同期に比べて4件(80.0%)減少

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3. 10 末
車間距離保持義務違反	44	106	122	62(-46)
進路変更禁止違反	8	10	5	1(-4)



酒類提供飲食店に対するハンドルキーパー運動への協力依頼



リュウピー・リュウミー交通保安官の任命

補足 〈 交通事故の発生状況 〉 ※令和3年11月末現在

【交通事故発生状況】

	H30	R1	R2	R3. 11 末
総事故件数(件)	25,540	21,990	18,804	17,710(+1,088)
人身事故件数(件)	1,398	1,168	868	828(+35)
死者数(人)	41	31	41	25(-11)
傷者数(人)	1,589	1,333	940	931(+70)
重傷者数(人)	260	234	161	157(+8)
物損事故件数(件)	24,142	20,822	17,936	16,882(+1,053)

※ 全国の交通事故死者数 (R3. 11 末) は2,352人で、前年同期に比べて189人減少

【年齢層別・状態別死者数】

(単位：人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	1	1	0	2	0	1	0	3(-1)
30歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
40歳代	1	2	1	4	0	0	0	4(+3)
50歳代	0	0	0	0	1	0	0	1(-1)
60～64歳	0	1	0	1	0	0	0	1(±0)
65歳以上	5	0	1	6	2	7	0	15(-12)
75歳未満	1	0	0	1	0	2	0	3(-10)
75歳以上	4	0	1	5	2	5	0	12(-2)
合計	8	4	2	14	3	8	0	25(-11)

【高齢交通弱者の死者数】

(単位：人)

	H30	R1	R2	R3.11末
高齢交通弱者の死者数	15	12	19	9(-7)
歩行中	10[10]	8[8]	14[14]	7[6](-4[-5])
夜間歩行中	5[5]	6[6]	9[9]	6[5](-1[-2])
自転車乗用中	5	4	5	2(-3)

※[]は反射材非着用

【年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）】

(単位：件)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	4	1	0	5	0	0	0	5(+1)
30歳代	2	0	0	2	0	0	0	2(-2)
40歳代	2	0	1	3	0	0	0	3(-2)
50歳代	2	0	0	2	0	0	0	2(-1)
60～64歳	1	1	0	2	0	0	0	2(±0)
65歳以上	10	0	0	10	0	0	0	10(-5)
75歳未満	5	0	0	5	0	0	0	5(-6)
75歳以上	5	0	0	5	0	0	0	5(+1)
合計	21	2	1	24	0	0	0	24(-9)